

幌東中学校



Thanks Mail 札幌トヨタ自動車 東札幌店

このたびは私たちのために、貴重なお時間をさいてご指導いただき、本当にありがとうございました。今回の職場体験とおして、私たちは、最近の自然環境にあった車のことなどを学びました。また、環境・エコに関する車の進化のお話には感じるものがありました。これから、自分たちも自然環境のことを考えることを忘れず、毎日の学習に力を入れていきたいと思えます。 2年 M・Y



チームワークで作業は効率的に。初めての運転席も体験!

札幌トヨタ自動車 東札幌店

「水圧が高いから気をつけて!」洗車ノズルを持つ生徒に、社員の方が声をかけます。後ろで見守るほかの生徒たちも「水圧に負けるな」「がんばれ」と仲間に声援を送っています。

ここは札幌トヨタ自動車東札幌店の作業所。生徒たちがまず体験したのは洗車です。スプレー洗車機で水洗いした後、スポンジに洗剤を含ませて手洗います。「一定方向にスポンジを動かすのがコツ」と、社員の方から教えられ、丁寧に汚れを落としていきます。しばらく経って生徒の1人が「横はもういいんじゃないかな。後ろに移動しよう」と声をかけると、みんな

一斉に動き始める、チームワークの良い4人組です。洗剤を洗い流す時も「上から、上から」「まだ洗剤が残っているぞ」と互いに声をかけ合って、仲良く作業を進めます。

洗車の後は、初めてという運転席を体験です。エンジンのかけ方や装備、機能の話に、全員が興味津々で聞いています。洗車の前にDVDを見てハイブリッドシステムについて学んだ生徒たち。「さっきは映像だったけど、本物を見るとワクワクする」と、さすが男の子です。「大人になったら、もっと進んだ技術の車に乗れると思う」と夢が膨らんだようでした。



美容師の基本の技術、網カーラーに挑戦!

美容サロンSION

「耳に水がかからないようにするのが大変だった」と言う、午前中にシャンプーを体験した女子4名と男子1名の生徒。午後は、髪にボリュームをつける網カーラーに挑戦です。

女子生徒がモデル役と美容師役を交代で務め、スタッフの方がマンツーマンで指導してくれます。「クシでとかして、指で挟んで、毛先を持つ。毛先は放さないで」とアドバイスを受けました。ごこちない手つきで髪をカーラーに巻き付ける生徒たち。スタッフの方から「初めての体験?」と聞かれても、作業に集中しているのうなずくだけで精一杯。それでも細やかな指導

のおかげで、30分ほどで巻き終える生徒もいました。

男子生徒は、ヘアワックスを付けた髪をねじるなど、セットの技術も教えてもらい、「普段、家でもできる」と参考になった様子です。「イケメンになるようにイメージすることが大切」と、美容師の心構えも伝授されました。

約1時間後、カーラーをはずしたモデル役の女子生徒は、一気に大人の雰囲気になりました。美容師役の生徒は「サザエさんみたいになるかもしれないと不安だったけど、きれいに仕上がった」とうれしそう。お互いにセットの出来栄を見合せて、気恥ずかしさと満足感

をかみしめている様子の生徒たちでした。



意外と肉体労働!? 接客業の大変さを体感

ツルハドラッグ 菊水上町店

「接客業に興味があった」と言う男子生徒2名と、「ここに買い物に来たことがあるから」と言う男子生徒1名がやってきたのはツルハ菊水上町店。

まずはこの日届いた商品をバックヤードから運び出し、棚に陳列する「品出し」を始めます。ところが、これが思った以上の肉体労働。「どこに商品があるのか、探すだけで大変」と、本音をポロリともらします。それもそのはず、菊水上町店では食品も扱っているため、札幌市内にあるツルハの中でも広くて商品数が多い店舗なのです。陳列棚の上には、商品種別が書かれた掲示板があり、その裏側にも在庫

が隠してあります。品出しの後は脚立に乗って、その在庫を下ろして、引き続き陳列作業です。

商品陳列ばかりで「接客を体験したかったのに残念」と話す生徒ですが、実はこれが接客の第一歩。「お客様から、あの商品はどこにあるかと聞かれることが一番多い」と、店員の方は言います。陳列作業をすることで商品の場所を覚え、お客様から最も多い質問に自信を持って答えることができるようになるのです。

「商品がどこにあるか暗記しなければいけないので大変」「意外と疲れる仕事だと思った」と、接客業の目に見えない苦労を実感した

生徒たちでした。



白石中学校



Thanks Mail 札幌市白石区体育館

先日は大変お忙しい中私たちの職業体験のために、大切な時間をさいてまで協力していただき誠にありがとうございました。僕は緊張と不安でなかなか自分から話しかけることができず、皆様には大変迷惑をおかけしてしまったと思っています。普段体育館で入れない所や、屋上などを見学させていただきありがとうございました。卓球台などの仕事を優しく説明してくれたおかげで、仕事を楽しみやすかったです。仕事を一生懸命やったあとの昼食は、いつもよりおいしく感じました。最後の卓球は、自分たちがふいた台で、卓球をすると、楽しくできたり、みんなでもりあげたのでよかったとおもいました。とても楽しい一日でした。本当にありがとうございました。 2年 Y・N



“どうしたらうまくいくか、考えて工夫を” 仕事に厳しい大将の優しさを胸に刻んで

「もっと速く!肩の力を抜いて」。大将の檄が飛ぶなか、厨房の煙と熱で顔を真っ赤にした男子2人が作っているのは、店オリジナルのマヨネーズ。必死で材料をかき混ぜる彼らの手元をじっと見つめ、タイミングを見計らってコツを伝授する大将は、厳しい口調ながらも目は優しく少年たちに接しています。次に彼らが挑戦したのはキャベツの千切り。初めて持つプロ用包丁で刻んだキャベツは、意外にもなかなかの見栄え。大将からおほめの言葉をいただき、少しホッとした表情です。その次は鶏肉を串に刺し、加減を見ながら網で焼く作業に移ります。煙に目を潤ませな

がら何度も串を返し、創業以来30年継ぎ足して守っているという秘伝のタレで味付けしました。生徒たちは「こだわりを持ち続けて仕事をするのはすごい」「思っていた以上に手間がかかっているのが驚いた」と感動しきり。その気持ちが表情にも姿勢にも現れ、熱心に仕事に取り組んでいました。

野球部員である彼らに大将は「こつこつ一生懸命に続けるのが大切。どうしたらうまくいくか、自分で考えて工夫するように。体で感覚をつかむまで何度でも練習だ。これは仕事も野球も一緒!」と、野球に結び付けたお話しもしてくださいました。2人はそのひと言ひと

やきとり元太

言に大きくうなずき、大将の言葉をしっかりと心に刻んでいたようです。



初めて知った“陰の苦勞” 利用者としての心がけも学んだ1日

白石区体育館を訪れたのは、日頃からここを利用しているスポーツ好きの男女10名。全員で体育館周辺の清掃をした後、女子2名は受付に挑戦です。受付の仕事は簡単と思っていたようですが、領収・受付・台帳ごとに違う判を押したり、会員別に入館者数をチェックしたりと業務は予想以上に複雑。スタッフの方の助けがないとスムーズに仕事が進みません。スタッフの方を真似て利用者さんに挨拶してみますが、照れくさいのか大きな声が出ません。「ちゃんと声をかけて足を止めてもらい、会員の種類や利用内容を確認してね」とスタッフの方に言われ、「いつもさう

さと入館していたけど、これからは受付でちゃんと足を止めます」と、今までの態度を反省する場面もありました。

一方その頃、男子は卓球台を拭いていました。ラケットが擦れて付いた汚れは、たくましい手でゴシゴシ拭いても簡単には落ちません。「部活よりキツイ」「手が痛い」と弱音を吐きながらも、固く絞った雑巾で懸命に汚れと格闘していました。「みんなが使う器具だから、これからは大事に扱おうと思います」「見過ごしたり当然だと思っていたことが、誰かのおかげによるものだったと気づきました」。この日、生徒たちは、今まで意識していな

札幌市白石区体育館

かったマナーや、陰の仕事にも感謝する気持ちを学んだようです。



商品の重みを知った手 環境保全の大切さに気付いた心

男子6名が向かったのは札幌市内にある唯一の大規模ビール工場。工場見学をした後は、出荷作業のお手伝いです。ヘルメットと軍手を付け、大切な商品が詰まらずしっかりと重たい箱を「よいしょ!」と持ち上げると、落とさないように、ぶつけないようにリフトへ運びます。その足取りは、とても慎重。重さと緊張感からか、数往復ただけで表情に疲れの色が見えてきました。「いつも飲んでいるジュースが、こういう作業を通して運ばれてきていたと思うと不思議な気分」と言う声も。

作業を終えてホッとしたのも束の間、続いて環境保全の取り組み

についての講義を聴きます。工場から出る廃棄物を再資源化するためゴミを47分別していると知り、6人は目を丸くします。座学の後、敷地内のリサイクルセンターへと移動し、実際に分別されている様子を見ました。ずらりと並んだゴミ箱をひとつひとつ興味深げに覗き込み「どれに何を入れるのか覚えるのが大変そう」「ピンは色別に捨てるんだね」と驚きの連続です。CMでよく見かける企業の、あまり知られていない取り組みを知り、環境保全について考えた生徒たち。「今日から家でゴミの分別をしっかりとやると思う」と力強く話してくれました。

アサヒビール(株)

